

理事長就任のご挨拶

(財)日本塗料検査協会 理事長
千葉工業大学教授、東京大学名誉教授
増子 昇

今般図らずも歴史と伝統のある日本塗料検査協会理事長という大役をお引受けすることになりました。防食防錆という限られた観点から塗装への関心を持ってきたに過ぎない私にとって、荷の重い役ですが、お引受けした以上は全力で取り組む所存ですので、御関係各位にご協力をお願い致します。

現在私の手元には今年の4月に制定された JIS K 5600(塗料一般試験法) 56分冊、および JIS K 5601(塗料成分試験方法)7分冊の大部な規格が届いております。これ等は1997年に日本塗料工業会に設けられた“塗料分野の国際統合化調査研究委員会”がまとめたもので、当協会の岩井氏が主査として取りまとめに尽力され、私が委員長をつとめました。これまで JIS K 5400、5407 を中心として来た塗料検査業務は、ISO規格との整合を目指した新規格の下で新しい世紀に入る事になります。工業標準化法改正に伴い、化学関係では当協会を含めた5機関が新たに「標準化推進の為の試験・検査団体」に指定されております。同時にこれまでの実績から見て、塗料分野における当協会の果たすべき役割への期待も大きくなります。

佐々木前理事長の卓越した指導力と、御関係各位のご協力のお蔭を持ちまして国際的に通用する試験機関として大きく飛躍する基盤が整備されました。国際的レベルの中立検査機関としての信頼を確かなものにして行くには、試験・検査という業務に要求される独立性と公明性に関して一層の信頼を寄せられるように努力を継続しなければなりません。

新しい世紀を迎えて人類は、技術の生み出した数多くの人工物に支えられて生活を享受する状況にあり、技術は今や第二の自然といえます。人間の生存に必要な道具として生まれた技術は、エネルギーを獲得して生活の質を向上させる機械になり、情報を

獲得して活動の領域を拡げるシステムになり、さらに進んで人間の生活をトータルに支える環境に進化して来ました。フランスのラスコーの洞窟には、見事な動物の絵が描かれています。粉にした酸化鉄顔料を中空の管に入れ、ぬれた岩面に吹きつけるという技法が約二万年前にすでにホモ・サピエンスによって発明されていたということです。同じような技法は現代でも液晶パネルの製造に利用されています。塗装は最も古い技術の一つであると同時に、現代でもなお最先端の技術であります。

技術の作り出す人工物は「からくり」と「材料」とから成り立っています。「材料」を使わなければ「からくり」を実体化する事は出来ません。一旦基本の「からくり」が成立すると、その後の技術の進歩、すなわち、より限定され、より特化された要求への適応は「材料」の進歩に大きく依存します。逆に「材料」には状況に適應する多様な機能が要求され、時にはお互いに矛盾する要求をうまく折り合せて使うことが必要になります。多様性を満足する「設計」は、材料に対する厳しい「試験」なしには生まれない事を考えると、塗料技術の進歩に対するわれわれの役割は益々大きくなります。

当協会への一層のご支援をお願い致します。

